

2026 年度 授業概要

科目名		病態運動学		授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	理学療法士科3年		必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 障害を有した患者様の姿勢分析、動作分析についての知識を学習し、予測できるimpairmentを抽出する。 中枢神経疾患の各疾患ごとに特徴的な動作と症状の照合を行い、理学療法評価や治療に結び付ける動作の見方を理解する。							
〔授業全体の内容の概要〕 病態の講義と障害をもつ患者様の映像を観察・分析し、各疾患の病態理解と結び付ける。							
〔講師の実務経験〕							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 impairmentを追求し解釈する。 中枢神経疾患の特徴的な動作と症状の照合を行い、理学療法評価や治療に結び付ける動作の見方を理解する。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション						
2	CVAの寝返り						
3	CVAの立ち上がり						
4	CVAの立ち上がり						
5	CVAの歩行						
6	CVAの歩行						
7	失調の立ち上がり						
8	失調の立ち上がり						
9	失調の歩行						
10	失調の歩行						
11	パーキンソン病の寝返り、起き上がり						
12	パーキンソン病の寝返り、起き上がり						
13	パーキンソン病の立ち上がり、歩行						
14	パーキンソン病の立ち上がり、歩行						
15	ペインについて						
16	肩関節脱臼、肩甲胸郭関節機能評価						
17	股関節の構造、FAIについて						
18	股関節疾患について						
19	膝周囲のスポーツ障害、overuseについて						
20	ACL損傷、半月板損傷						
21	足部障害の病態評価、アキレス腱周囲障害						
22	足関節靭帯損傷の評価						
23	変形性股関節症の病態と評価						
24	変形性股関節症の病態と評価						
25	大腿骨頸部骨折の病態、評価						
26	大腿骨頸部骨折の病態、評価						
27	変形性膝関節症の病態と評価						
28	変形性膝関節症の病態と評価						
29	脊柱管狭窄症、腰痛の理学療法学						
30	脊柱管狭窄症、腰痛の理学療法学						

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
テキストは使用せず、適宜資料を配布する		

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

筆記試験で判定する